

吉田の火祭りとすすき祭り

吉田の火祭りは、北口本宮富士浅間神社と諏訪神社が 8 月 26 日と 27 日に共同で開催する秋祭りです。登山シーズンの終わりを告げる「山仕舞い」の祭りとして認識されています。

1 日目には、長さが 3m にもおよぶ松明が約 80 本、富士吉田市内の町中に立てられます。夜の帳が下りると、神聖な神楽の演奏が始まり、松明が点火され、一面が火の海になります。

富士山の御影

火祭りの間は、2 基の神輿が町中を渡御します。そのうち 1 基は、つややかな赤い漆で仕上げた木材製の重量 1 トンの富士山型です。御影として知られるこの神輿は、町の巡行が休止しているときに地面に 3 回打ち付けられます。この地域のその他のいくつかの神社も特徴的な富士山型の神輿を所有しています。この伝統の起源ははっきりとしませんが、神輿の内側には 1704 年に作られたものであると書かれています。

すすき祭り

すすき祭りは、神輿が一夜を過ごした御旅所から神社に戻る 8 月 27 日の午後に開催されます。白い紙帯で清められたすすきの小枝の束[すすきの玉串]を持った参拝者が神社へと戻る神輿の後に続き、神社の境内にある高天原と呼ばれるエリアの周りを数周回ります。